

環白神山地エリアの魅力を伝える『手引書』

— 白神山地インタープリテーション全体計画 —

(ストーリー編)



令和8年3月

環境省東北地方環境事務所

目次

第1章	はじめに	1
1.	白神山地インタープリテーション全体計画の目標	1
2.	インタープリテーションとは.....	2
3.	ストーリーとは.....	3
4.	この計画の位置づけ.....	3
第2章	「環」白神山地エリアの価値とストーリー	4
	プロローグ：白神山地エリアの魅力	6
	環白神山地エリアの持つ価値（イメージ図）	7
1.	世界遺産を育んだ大地の物語	
	～険しい地形が維持してきたブナの森～	8
2.	めぐみを生み出す大気と水の循環	
	～数千年をかけて確立されたいのちの循環システム～.....	10
3.	森と人との関わり ～数千年続く森と人との共生～	12
4.	産業と交易 ～資源利用の変遷が紡いだ産業と文化の交流～	14
5.	白神山地の将来への視点 ～過去の教訓と未来に向けた行動～.....	16
	エピローグ：白神山地の未来へ願うもの.....	18
第3章	ストーリーを体験できる地域資源	19
参考資料	ストーリーの伝え方.....	24
	この計画の使い方について	31

第1章 はじめに

1.白神山地インタープリテーション全体計画の目標

この計画の目標は、環白神山地エリアに関わるすべての人が、この地域の持つ価値について考え、その魅力を正しく/分かりやすく伝えられるようになることです。

本計画で対象とする環白神山地エリアとは、(山塊としての)白神山地の周辺地域です。主には環白神エコツーリズム推進協議会の構成自治体である鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村、藤里町、弘前市、八峰町、能代市、大館市、北秋田市のうち、岩木山周辺エリアを除いたエリアとなります。



2. インタープリテーションとは

インタープリテーションのそもそもの意味は「通訳・解釈」です。ここでは、地域の資源（自然、歴史、文化など）を体験や教材を通してより深く理解してもらう活動を指します。

これは体験を通して意味や関係性（＝ストーリー）を伝えること、また見えるもの（自然、祭り、食、文化・・・）を通じて、見えないもの（時間、価値、意味）を伝えることとも言い換えられます。

インタープリテーションは単なる教育ではなく、楽しませ心を揺さぶるエンターテイメントです。また、インタープリテーションは機能を指し、インタープリターはその役割を担う人のことです。

インタープリテーションを行う人はガイドやインタープリターだけではありません。宿泊施設、飲食店、土産店、バスやタクシーなどの交通運輸に関わる人など、来訪客と接するあらゆる人が役割を担うことが期待されます。また、人によるインタープリテーション（ガイドや案内）と、人によらないインタープリテーション（展示、解説版、印刷物、Web サイト 等）があります。

3.ストーリーとは

ストーリーとは、地域の資源や魅力（ヒト・モノ・コト）の背後に隠れた意味や関係を文章化したものです。ストーリーがあることで、個々の資源が「なぜここにあるのか」が分かり、複数の資源や魅力の中に点在する地域全体の魅力を、一貫性をもって伝えることができます。

音楽に例えて言うと、ストーリーとは、「楽譜（原曲）」のようなものとも表現できます。つまり、地域の人々が同じ楽譜（ストーリー）を持つことで、自身の楽器（役割）や聞き手（来訪者）に合わせてそれぞれ編曲し、語りや体験として演奏（提供）することができます。

この「ストーリー（何を伝えるか）」は必ずしも固定化されたものではありません。楽譜（原曲）が時代に応じて書き換えられていくように、地域での活動を通じて新しい価値やストーリーが見つかった場合に随時更新や追加していく事が望まれます。

4.この計画の位置づけ

インタープリテーション全体計画は、2000年頃から米国のすべての国立公園で作成されています。日本では2022年に雲仙温泉地区で作成されて以降、各地で作成されるようになっていきます。

計画は「ストーリー（何を伝えるか）」と「コミュニケーション戦略（誰が誰にどう伝えるか）」の両輪で構成されます。この白神山地インタープリテーション全体計画（ストーリー編）は、上記のうち「ストーリー（何を伝えるか）」を中心に取りまとめています。今後、後半の「コミュニケーション戦略（誰が誰にどう伝えるか）」についても議論を重ね、地域の関係者間での共通理解としていく事が望まれます。（巻末に「参考資料」として考え方を整理しています）

第2章 「環」白神山地エリアの価値とストーリー

この「環」白神山地エリアの価値とストーリー」は、2024～2025年度にかけて、環白神山地エリアの価値について話し合うために複数回にわたり開催した会合（ワークショップ）において参加者から提出された意見をもとに、各種参考文献を参照して情報を加えて作成しています。

ストーリー一覧

プロローグ：白神山地エリアの魅力

1.世界遺産を育んだ大地の物語

～険しい地形が維持してきたブナの森～

1-1 氷期を乗り越えた生態系

1-2 地すべりの上にできる豊かな森

2.めぐみを生み出す大気と水の循環

～数千年をかけて確立されたいのちの循環システム～

2-1 水の循環

2-2 きれいな水の恵み

3.森と人との関わり～数千年続く人と自然の共生～

3-1 縄文文化とマタギの伝統

3-2 地域に根付く祭りや伝統行事

3-3 厳しい環境で育まれた郷土料理と食、生活の知恵

4.産業と交易～資源利用の変遷が紡いだ産業と文化の交流～

4-1 鉱山開発と鉱山文化、そして消えた集落

4-2 木材の輸送と共に運ばれ、発展した文化

5.白神山地の将来への視点～過去の教訓と未来に向けた行動～

5-1 森林価値の再認識と世界遺産登録

5-2 環白神山地エリア連携による持続可能な地域づくり

エピローグ：白神山地の未来へ願うもの

プロローグ：白神山地エリアの魅力

白神山地エリアを旅することは、単に風景を巡ることにとどまりません。世界自然遺産である白神山地とそれを取り囲む「環」白神山地のエリアでは、およそ200万年をかけて形成された白神山地の深い山と谷と豊かな自然、数千年をかけて育まれてきた自然と人の共生の姿に触れることができます。環白神山地エリアを旅することで、白神山地からのメッセージを感じてみませんか。

環白神山地エリアの持つ価値（イメージ図）

雪深きブナの森が育む、いのちとくらし。

太古の昔から今、そして未来へ繋がるいのちの循環の物語。

白神山地に触れ、生きる意味と出会う。

氷河期を越えたいのちの森

日本海の湿った空気が白神の山々にぶつかることによって生まれる雪。世界有数の降雪量が、「緑のダム」であるブナの森を形づくってきました。



1.世界遺産を育んだ大地の物語

～険しい地形が維持してきたブナの森～

白神山地には、広大なブナの森が原生的な状態で残されています。白神山地のブナの森が現在でも東アジア最大の規模で残っている理由の一つは、大地の隆起と浸食により形成された険しい地形により大規模な開発が行われなかったためです。

1-1 氷期を乗り越えた生態系

氷期以前の地球が比較的暖かかった時期、ブナは北極周辺に分布していました。氷期に向かい次第に寒くなるにつれ、徐々に分布が南下してきました。世界の他の地域と異なり日本周辺には南下を妨げるような標高の高い山岳がなかったことから、北極周辺での植生をほぼ維持したまま南下しました。氷期が終わった後もたくさん雪が降るような寒冷な地域にとどまって豊かな森を作っています。



写真) 白神山地ビジターセンター

1-2 地すべりの上に行ける豊かな森

隆起と浸食により作られた白神山地の急斜面は地すべりを起こしやすい性質があります。地すべりのあとにはブナが成長するまでに多様な植物が現れ、豊かな生態系が育まれることとなります。



2.めぐみを生み出す大気と水の循環

～数千年をかけて確立されたいのちの循環システム～

日本海からの湿った空気が白神山地の山々にぶつかり、世界有数の降雪量をもたらします。ブナは雪の重みに耐えることができるため、たくさん雪が降る場所にはブナの森が形成されます。ブナの森の土壌は水を蓄える「緑のダム」として機能します。その水は長い時間をかけて緩やかに山から染み出し、川となって海へ注ぎます。この水の循環が、白神山地の生態系を生み、環白神山地エリアの生活基盤となって、豊かな食や文化を支えています。

2-1 水の循環

ブナの森に降った水は、数十 cm に達する腐葉土層を通り、土壌によって濾過されます。この水は川を下り、海へ注ぎ、やがて水蒸気となり、雨や雪となって再び森へ還ります。水系の上流から下流まで、全てが一連の循環システムで連結されています。

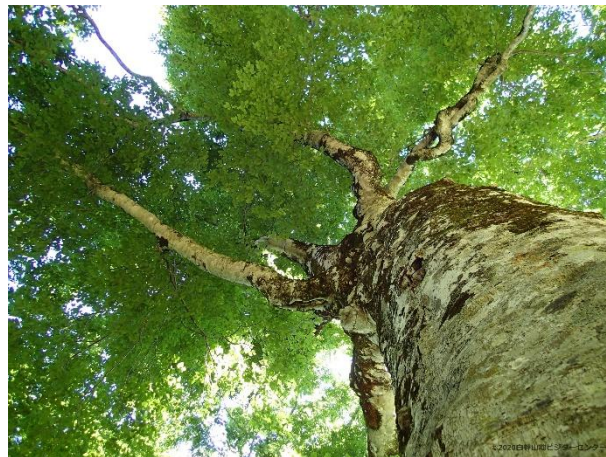


写真) 白神山地ビジターセンター

2-2 きれいな水の恵み

白神山地の湧水は、ミネラル分の少ない超軟水であり、地域の生活を潤し、食物を生み出し、伝統的な食文化の根幹となっています。川ではヤマメやイワナ、アユ、湖沼ではじゅんさい、そして海ではハタハタをはじめとする魚介類が豊富に獲れます。この超軟水を使い、日本酒が造られています。きれいな水は、魚釣り、リバートレッキング、カヌーといった自然の楽しみ方を私たちに提供してくれます。



写真) 白神山地ビジターセンター

3.森と人との関わり ～数千年続く森と人との共生～

白神山地の森は、多様な動植物が生息する生命の宝庫です。人々は数千年前から、山菜、きのこ、木の実、動物といった森の恵みを利用し、森とともに生活してきました。森は、生命を育む基盤であり、森と人が深く関わり合う生活の場でもあります。

3-1 縄文文化とマタギの伝統

環白神山地エリアでは、縄文時代の遺跡が複数見つかっています。農耕が発達していない時代であり、人々は自然の恵みに頼って生きていました。白神山地のブナの森は人々に食物や生活に必要な材料を与えました。縄文人の生活様式は、マタギ（狩猟民）の思想と共通しています。山の恵みを必要な分だけ利用し、自然への感謝を忘れないマタギの思想は、持続可能な資源利用のあり方を示しています。



3-2 地域に根付く祭りや伝統行事

環白神山地エリアは、豪雪地帯という厳しい自然環境にありながら豊かな森の恵みに支えられてきました。この恵みを享受し、そして厳しい自然の脅威を乗り越えて生きるために、人々は共同体の繋がりを深める祭りや伝統行事を大切にしてきました。五穀豊穡、豊漁、商売繁盛、厄払いといった生活に密着した願いを込めて受け継がれています。これらの伝統行事は、白神山地の自然と人々の暮らしが共に歩んできた歴史を伝える貴重な財産です。

3-3 厳しい環境で育まれた郷土料理と食、生活の知恵

ブナの森が育む豊かな土壌は、たくさんの山の恵みをもたらします。人々は食物を採集し、季節ごとの旬の味を楽しみながら、白神山地の森が生活と密接に結びついていることを実感してきました。また、寒さが厳しく、たくさんの雪に閉ざされる、食物が得にくい冬を越すため、人々は様々な衣食住の工夫や食料を長期保存するための知恵を生み出しました。様々な漬物、ハタハタなどの魚を使った飯寿司やしょつつる（魚醤）といった保存食や発酵食文化、こぎん刺しのような生活文化が発達しました。



4.産業と交易

～資源利用の変遷が紡いだ産業と文化の交流～

環白神山地エリアには、鉱山開発の歴史があり、山間に鉱夫と家族が住む集落が形成されました。林業も盛んであり、木材は山から川に沿って海へ、そして秋田杉は、北前船によって遠く上方（畿内）に流通し、一方で上方の文化が持ち込まれました。道路だけでなく、川や海が交易の舞台となり、資源とともに文化も輸送され、人々の生活を形作っていきました。

4-1 鉱山開発と鉱山文化、そして消えた集落

環白神山地エリアは、地下資源の宝庫です。尾太鉱山や太良鉱山などに代表される鉱山開発は、数百年にわたり地域の経済を支える重要な産業でした。鉱山が栄えることで山奥には集落が形成されました。しかし、鉱脈の枯渇や需要の低下に伴い、多くの集落や鉱山町は消えていきました。

4-2 木材の輸送と共に運ばれ、発展した文化

環白神山地エリアの木材は、古くから重要な資源としてこの地の産業を支えてきました。青森では岩木川に沿って薪や炭が輸送されました。また秋田では秋田杉が米代川やその支流へと集められ、「筏（いかだ）流し」で河口へと運搬され、そこから北前船によって各地に出荷されました。北前船は資源と文化の輸送路で、また潮流や季節風を待つ風待ち港が環白神山地エリアの海岸に発展しました。杉材は現在も地域経済にとって不可欠な資源であり続けています。



5.白神山地の将来への視点

～過去の教訓と未来に向けた行動～

あなたにとって、環白神山地エリアへの旅が、この地の歴史に触れ、未来への展望を考える機会となれば幸いです。私たちは、縄文時代から続く自然と人との共生の知恵と、世界遺産に指定されたブナの森を、どのようなメッセージとともに次世代に引き継ぐべきか考えていきたいと思えます。

5-1 森林価値の再認識と世界遺産登録

地域にとって裏山の風景であった白神山地のブナの森は、青秋林道建設計画※を契機とした自然保護活動の高まりにより、価値が深掘られ、社会に認知されることとなりました。ブナの森の保全を求める市民活動が、日本で初めての世界自然遺産登録へと繋がり、この森が「人類共通の財産」として未来へ引き継いでいくべき他に代えがたい存在であることが確認されました。

※ 青秋林道建設計画

青森県と秋田県にまたがる白神山地を縦断する広域基幹林道を建設する計画でしたが、1982年に着工したものの、自然保護運動が活発化し、1988年に凍結されました。

5-2 環白神山地エリア連携による持続可能な地域づくり

世界遺産に登録されて以降、白神山地の保全と活用には多くの人に関係してきました。エコツアー事業者や観光事業者、農林漁業者、地域住民など、2つの県・9つの市町村にまたがる環白神山地エリアの関係者が白神山地世界遺産の普遍的価値を保全しつつ、その周辺の環白神山地エリアにおいて自然・文化資源を活かした持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



写真) 環白神エコツーリズム推進協議会

エピローグ：白神山地の未来へ願うもの

200万年におよぶ白神山地の形成期間、数千年におよぶ自然と人の共生の時間——この長い時間の積み重ねの上に、現在の白神山地と私たちの社会は存在しています。この悠久の流れの中で、私たち世代が生きる時間はごく一瞬に過ぎません。しかし、その一瞬の間に、私たちには、このかけがえのない白神山地の自然と、自然から生み出された文化を未来へと引き継ぐ役割があります。持続可能な社会をつくるため、あなたなら過去から培われてきた知恵をどのようなストーリーにして、未来に伝えていきますか。あなたのストーリーを私たちに聞かせてもらえたら、とてもうれしいです。



写真) 白神山地ビジターセンター

第3章 ストーリーを体験できる地域資源

第2章に記載したような環白神山地エリアの価値を体験できる代表的な地域資源（主な立ち寄り施設、観光スポット、行事、生活文化など）をリストアップしました。

このリストは第2章と同様に、2024～2025年度にかけて、環白神山地エリアの価値について話し合うために複数回にわたり開催した会合（ワークショップ）において参加者から提出された意見をもとに、参考文献（山下祐介 編『世界自然遺産30周年 環白神の世界：みちのくの奥に広がる、まつろわぬ人々の地へ』（別冊太陽 日本のこころ 321）平凡社、2025年）を参照して情報を加えて作成しています。

環白神山地エリアの価値を体験できるポイントはもちろんこれだけではありません。また今後も新たな地域資源が生まれてくるでしょう。

地域の関係者でストーリーに基づく実践の取り組みを継続し、そこで得られた経験を元にこのリストをさらに充実させていく事が重要です。

※ ストーリーごとに整理した後、同種類の資源を並べて表示しています。

No	資源の名称	資源の位置する 市区町村	ストーリー 1	ストーリー 2	ストーリー 3	ストーリー 4	ストーリー 5
1	日本キャニオン	深浦町	○	○		○	
2	西海岸(夕陽海岸)	深浦町	○	○		○	
3	中浜海岸(ブラックサンドビーチ)	八峰町	○	○		○	
4	鹿の浦展望所	八峰町	○	○		○	
5	白神岳	深浦町	○				
6	津軽峠	西目屋村	○				
7	七座山	能代市	○				
8	田代岳	大館市	○				
9	小岳	藤里町	○				
10	釣瓶落峠	藤里町	○				
11	藤里駒ヶ岳	藤里町	○				
12	留山	八峰町	○				
13	北金ヶ沢の大銀杏 ビッグイエロー	深浦町	○		○		
14	暗門の滝	西目屋村	○	○			
15	世界遺産の径ブナ林散策道	西目屋村	○				
16	ニツ森	八峰町	○	○			
17	野生生物(ヤマネ、ツキノワグマ、イヌワシ、クマタカ、ヤマセミ、アカショウビン、クマゲラ、ホタル等)	全域	○				
19	自然観察館ハロー白神	鱒ヶ沢町	○				○
20	白神十二湖エコ・ミュージアム	深浦町	○				○
21	十二湖ビジターセンター	深浦町	○				○
22	白神山地世界遺産センター(西目屋館)	西目屋村	○				○
23	白神山地ビジターセンター	西目屋村	○				○
24	白神山地世界遺産センター(藤里館)	藤里町	○				○
25	風力発電設備(風車)	八峰町、鱒ヶ沢町、深浦町、能代市	○				

No	資源の名称	資源の位置する 市区町村	ストーリー 1	ストーリー 2	ストーリー 3	ストーリー 4	ストーリー 5
26	くろくまの滝 赤石溪流	鱒ヶ沢町		○			
27	十二湖	深浦町		○			
28	不動の滝	深浦町		○			
29	温泉	深浦町		○			
30	乳穂ヶ滝(氷祭)	西目屋村		○	○	○	
31	銚子の滝	藤里町		○			
32	峨瓏の滝	藤里町		○		○	
33	「白神山地」の水	鱒ヶ沢町、 藤里町		○			
34	山菜類(タラノメ、ウド、コシアブラ、シドケ、ミズ等)	全域		○	○		
35	川の魚(イワナ、ヤマメ、アユ等)	全域		○			
36	日本海の魚介類(マグロ、ハタハタ、イワガキ、アマダイ、トラフグ、ノドグロ、イカ、ヒラメ、カレイ、サザエ、ホヤ、ギバザ、モズク等)	全域		○			
37	ヒラメの漬け井	鱒ヶ沢町		○			
38	地酒	全域		○	○		
39	ワイン	藤里町		○			
40	白神の森遊山道	鱒ヶ沢町			○		
41	岳岱自然観察教育林	藤里町			○		
42	縄文遺跡群(伊勢堂岱遺跡、西目屋村縄文遺跡群、大森勝山遺跡等)	全域			○		
43	弘前市紙漉沢の上皇宮	弘前市			○	○	
44	弘前城/弘前公園	弘前市			○		○
45	種里城跡 光信公の館	鱒ヶ沢町			○	○	
46	関の甕杉・古碑群	深浦町			○	○	
47	檜山安東氏城館跡	能代市			○	○	

No	資源の名称	資源の位置する 市区町村	ストーリー 1	ストーリー 2	ストーリー 3	ストーリー 4	ストーリー 5
48	本館城跡	八峰町			○		
49	白神ジビエ料理	西目屋村ほか			○		
50	白神まいたけ	藤里町			○		
51	白神ラム	藤里町			○		
52	円覚寺	深浦町			○	○	
53	白神岳お山参詣	深浦町			○		
54	広泰寺と不識塔、斎藤主	西目屋村			○		
55	兜神社・鎧神社	能代市			○		
56	田代山神社	大館市			○		
57	錦神社	大館市			○		
58	西木戸神社	大館市			○		
59	白八幡宮大祭	鱒ヶ沢町			○		
60	大館アメッコ市	大館市			○		
61	山田獅子踊り	大館市			○		
62	蛭沢獅子踊り	大館市			○		
63	綴子神社例大祭	北秋田市			○		
64	浅間神社祭典・藤琴豊作踊り	藤里町			○		
65	駒踊りと獅子舞	藤里町			○	○	
66	石川駒踊り	八峰町			○		
67	白瀑神社(みこしの滝浴)	八峰町			○		
68	三五八漬け	全域			○		
69	飯寿司	全域			○		
70	白神こだま酵母	全域			○		
71	白神ささら(乳酸菌)	能代市			○		
72	クロモジ茶	全域			○		
73	けの汁	全域(主に青森県側)			○		

No	資源の名称	資源の位置する 市区町村	ストーリー 1	ストーリー 2	ストーリー 3	ストーリー 4	ストーリー 5
74	りんご	弘前市、西目屋村			○		
75	鯨餅	鱒ヶ沢町			○		
76	目屋豆腐	西目屋村			○		
77	馬肉料理（なんこ鍋、なんこうやき、煮つけ）	弘前市、西目屋村、能代市、藤里町、北秋田市、大館市			○		
78	きりたんぼ鍋	秋田県側			○		
79	だまこ鍋	秋田県側			○		
80	豚なんこつ	能代市			○		
81	目屋人形	西目屋村			○		
82	大館曲げわっぱ	大館市			○		
83	深浦町歴史民俗資料館・美術館	深浦町			○	○	○
84	白神周辺の鉱山・産業遺産群(尾太鉱山、太良鉱山、長慶金山、赤倉鉱山、阿仁鉱山、加護山製錬所、花岡鉱山、深沢鉱山、餌釣鉱山、発盛鉱山)	大館市、北秋田市、能代市、八峰町、西目屋村				○	
85	旧料亭金勇	能代市				○	
86	風待ち館	深浦町				○	
87	ブナの森ふれあい伝承館	能代市					○
88	あきた白神認定ガイド	全域					○
89	環白神エコツーリズム推進協議会	全域					○
90	自転車で周遊する「シライチ」プロジェクト	全域					○
91	白神検定	全域					○

参考資料 ストーリーの伝え方

1.誰がどう伝えるか

第1章で記載したように、インタープリテーションを行ってストーリーを伝える人はガイドやインタープリターだけではありません。環白神山地エリアを訪れる来訪者と接することの多い宿泊施設、飲食店、土産店、バスやタクシーなどの交通運輸に関わる人にもストーリーを伝える役割が期待されます。また、来訪者と直接接することは少ない観光協会や行政などの人も、情報発信や側面支援といった形でストーリーを伝える役割が期待されます。

1-1 宿泊施設・飲食店・交通運輸

来訪者と接する際の何気ない会話や質問への回答、あるいは宿泊施設や飲食店であれば料理やそのしつらえなどを通じて、来訪者に環白神山地エリアらしさ（環白神山地エリアならではの価値）やその体験の仕方を伝え、来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰ってもらいましょう。

1-2 土産物店

お土産やそのパッケージなどを通じて、環白神山地エリアらしさ（環白神山地エリアならではの価値）を、来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を、来訪者の家族や友人に伝えてもらいましょう。

1-3 ガイド・インタープリター

ガイド・インタープリターは、体験プログラムやガイドツアーなどを通じて、来訪者に環白神山地エリアらしさ（環白神山地エリアならではの価値）を伝え、来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰ってもらう一番の担い手です。それらの価値を伝えることのできる資源の大切さを来訪者に理解してもらい、資源の保全・継承につなげましょう。

1-4 観光協会

観光情報を発信するパンフレットや Web サイト、SNS などに、環白神山地エリアらしさ（環白神山地ならではの価値）やその体験の仕方を掲載し、来なければ味わえないモノ・コト・時間・感動を分かり易く PR しましょう。

1-5 行政

地域の全員が、来訪者に環白神山地エリアらしさ（環白神山地エリアならではの価値）やその体験の仕方を伝えやすくなるように、また、来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰ってもらう一翼を担えるように、この計画や地元の商品・サービスなどを磨き上げていく活動を側面支援しましょう。

また、学校教育で環白神山地エリアならではの価値について学ぶ機会を設定するなど、それらを伝えることのできる資源の保全・継承に取り組む文化を、率先して創っていきましょう。

地域ならではの価値を伝えるさまざまな主体や方法の例



イラスト) 堀口治香氏

2.誰に伝えるか

ストーリーは、環白神山地エリアの魅力を語る物語であり、来訪者にその魅力を伝え、地域をより深く知ってもらうための媒体です。

この際、来訪者が抱く興味・関心の度合いは、人によって異なります。旅行や観光の経験（環白神山地エリア以外で得たものも含む）を重ねた来訪者は、訪問先の地域に対して、より深い興味・関心を抱きますが、自分の興味・関心の度合いと乖離したストーリーは、来訪者にとって退屈なものとなります。

退屈は、地域の魅力の高低とは関係がなく、単に需要と供給の不一致によって生じます。このような不一致を避けるため、来訪者の興味・関心の度合いとして、いくつかの段階を想定する必要があります。

その上で、それぞれの興味・関心の度合いに応じて、対象となる客層のイメージを想定し、それに対応するような地域での体験やインタープリテーション手法を検討する必要があります。

さらにこの際、

- 興味・関心の対象の違い（自然、歴史、生活文化、環境 など）
- すでに地域に来訪している人と今後地域として来訪してほしい人といった違いを意識することも重要です。

来訪者の興味・関心の段階に応じた対象となる来訪者層の設定と体験のイメージ

段階	興味・関心の度合い	対象となる来訪者層(イメージ)	環白神山地エリアでの体験(イメージ)	主なインタープリテーション手法
段階1	見たい 聞きたい 味わいたい	ファミリー 等	食、酒、宿泊、散策等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊施設や飲食施設、土産物店等でのサービス提供を通じた案内、施設内への資料掲示 ・ 地域内の案内板、標識 ・ 印刷物、Web サイト
段階2	知りたい	学生、教育旅行 等	登山、ビジターセンター訪問、体験プログラム参加 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジターセンターでの展示、解説 ・ ガイドやインタープリテーション(気付きを与える)
段階3	探求したい	知識欲の高い層 等	ガイドツアー参加、体験プログラム参加等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドやインタープリテーション(気付きをきっかけとしたより深い理解を促す)
段階4	参加したい	関係人口としての都市在住者 等	保全活動参加 等	(来訪者自身の能動的な活動)

3.いつ伝えるか

環白神山地エリアならではの価値を伝える場面は、実際に来訪者が地域を訪れている間だけではありません。

実際には、

- 来訪前（どのように関心を持ってもらうか／来訪してもらうか）
- 来訪中（どのように感動してもらうか）
- 来訪後（どのように地域とつながり続けてもらうか／
つながりを広げてもらうか）

など、来訪者が環白神山地エリアに関心を持ち、実際に来訪し、帰っていくという一連のプロセス全体の中で考える必要があります。

4.よりよく伝えていくために

来訪者が求めるものも、時代や社会環境の変化、あるいは来訪者自身の環白神山地エリアとの関わり方によって常に変化しています。

また、ストーリーを伝える側の人も、新しく移り住んでくる人や世代交代などで常に移り変わっていきます。

このため、環白神山地エリアならではの価値をどのように伝えるかということについては「これが完成形だ」というものはありません。

このため、試行的なツアーや日々のそれぞれの主体の事業推進の中で、来訪者に対するインタープリテーションを試行錯誤し、その結果を関係者間で共有しつつ、再度実践に反映させていくプロセスによって、全体としてのレベルを維持し、向上させていく取組が求められます。

また、ストーリーを伝える側の人としても人材育成とネットワークづくりを続けていく必要があります。

具体的には、

－ インタープリテーションを行う関係者（お客様と接する宿泊施設、飲食店、土産店、バスやタクシーなどの交通運輸に関わる人、あるいは観光協会や行政など）が参加して行う、インタープリテーションの企画や実践に関する研修会などを行っていくことが考えられます。

こういった取り組みは、当初は行政のような公的な立場の主体が主導することが考えられますが、長期的には観光協会や観光地域づくり法人（DMO）といった民間の主体が中心になって進めていくことでより活動としての持続性が高まります。

更にその上で、それらの成果をもとに

－ 環白神山地エリアならではの価値をどう伝えていくかという、地域としてのインタープリテーションの方向性を示した戦略づくり

※作成した戦略は「白神山地インタープリテーション全体計画（伝え方の戦略編）」として位置付け、本計画（ストーリー編）とセットで活用する
といった取り組みを行うことも期待されます。

この計画の使い方について

この「白神山地インタープリテーション全体計画」は、これを読まれているあなたをはじめ、白神山地に関わるたくさんの方々に活用していただくこと、地域の活性化につながることを願いつつ、数十人の地域の方々とともに作成しました。

このため、環白神エコツーリズム推進協議会とその構成機関（観光関係者・教育関係者等を含む）は、計画の主旨である「ストーリーを伝える」という目的に適う活動において、計画中の文章、イラスト、図などを自由に利用することができます。また、それぞれの地域や利用形態・伝える対象者に合わせて、文章のアレンジや一部を切り取って使用することも可能です。

ただし、上記の「ストーリーを伝える」という目的と乖離した利用は避けるようにしてください。

- （望ましくない利用（＝必ずしもストーリーを伝えるためでない利用）の例）
- ・土産品を企画・販売する事業者が、自社商品のパッケージにインタープリテーション全体計画の文章（あるいはキャッチコピー）やイラストを切り抜いて（断片的に）使用する など

※ 本計画に含まれる文章、イラスト、図などの著作権は環境省に帰属しています。

環白神山地エリアの魅力を伝える『手引書』

－白神山地インタープリテーション全体計画－（ストーリー編）

発行	環境省東北地方環境事務所国立公園課 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第二合同庁舎6F TEL 022-722-2874
協力	環白神エコツーリズム推進協議会
監修	川嶋直事務所
デザイン	株式会社 PARK365 竹山 香奈
イラスト	株式会社 PARK365 竹山 香奈 halu stamp factory 石山 春香
制作	公益財団法人 日本交通公社

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した [A ランク] の材料を用いて作製しています。